

日本気象学会 昭和57年秋季大会

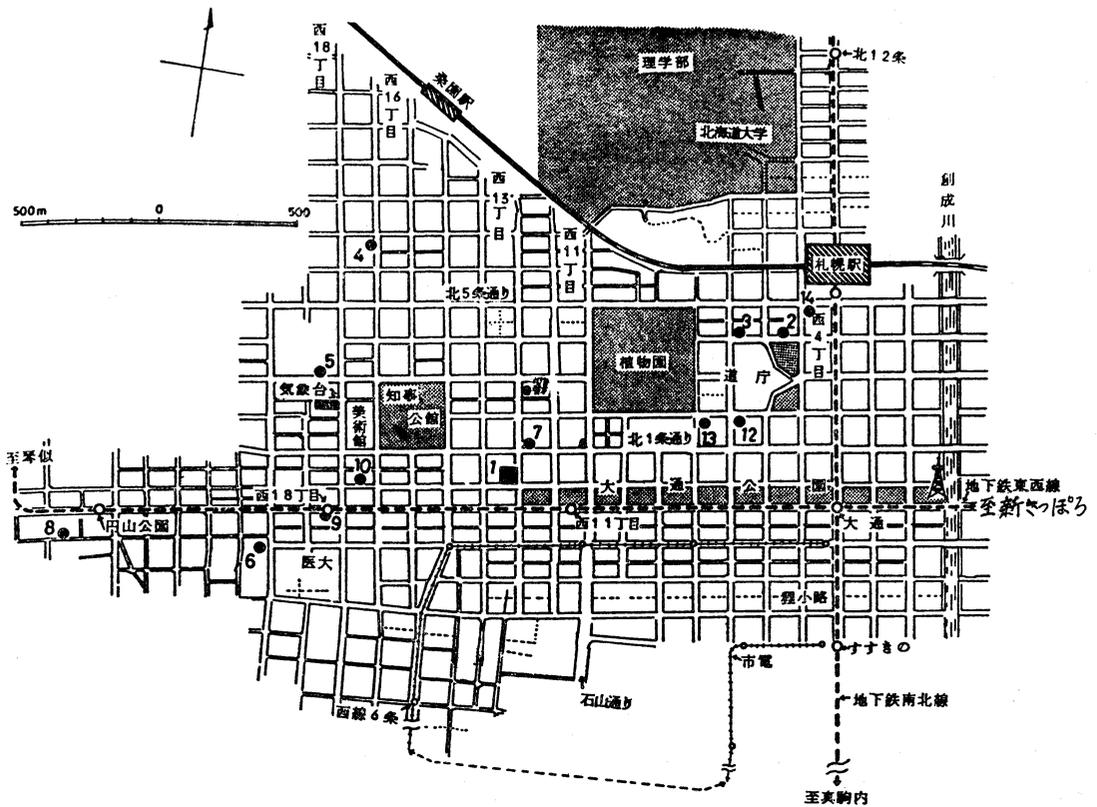
会期：昭和57年10月13日（水），14日（木），15日（金）

会場：札幌市教育文化会館（札幌市中央区北1条西13丁目）

目次

会場案内	851
大会行事予定表	852
研究発表内容一覧表	853
シンポジウム内容	853
研究発表題目	854～860

会場案内図



注：会場（教育文化会館）には一般利用者用の駐車スペースがありませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。

大会行事予定

1. 会場：札幌市教育文化会館 (Tel. 011-271-5821)
 第1会場 (講堂, 4階)
 第2会場 (大研修室, 3階)
 第3会場 (中研修室, 3階)
 委員会・事務局 (小研修室A, 3階)
2. 会期：10月13日 (水), 14日 (木), 15日 (金)
3. 行事

行事		
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	10月13日 (水) 09:30~12:00 13:00~17:00
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	10月14日 (木) 09:00~11:30
理事長あいさつ, 日本気象学会 奨励金贈呈式 特別講演 シンポジウム 懇親会	小ホール (1階) サッポロビール園	12:30~ 13:45~ 14:00~17:00 18:00~20:00
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	10月15日 (金) 09:00~12:00 13:00~17:00

大会委員長 寺内栄一

特別講演

1. 日時 大会第2日 (10月14日)
2. 会場 小ホール
3. 講師 小倉義光 (イリノイ大学)
“雲をつかむ話” 現代版

昭和57年秋季大会

() : 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
10月13日 (水)	09:30~ 12:00	中小規模・総観規模現象Ⅰ (101~111) —黒沢真喜人—	大気汚染 (201~211) —伊藤 昭三—	測器 (301~310) —内藤 恵吉—
	13:00~ 17:00	中小規模・総観規模現象Ⅱ (112~127) —秋山 孝子—	エクマン境界層 (212~219) —吉門 洋— エクマン境界層 (220~227) —笹野 泰弘—	エアロゾル (311~325) —望月 定—
10月14日 (木)	09:00~ 11:30	地球流体力学 (128~139) —森山 茂—	接地境界層 (228~237) —小林 俊—	大気化学・大気電気 (326~333) —大喜多敏—
	12:30~ 13:45 14:00~ 17:00	理事長あいさつ、日本気象学 会奨励金贈呈式 特別講演 小ホール：1階 シンポジウム		
10月15日 (金)	09:00~ 12:00	大気大循環 (140~151) —廣田 勇—	局地循環 (238~251) —浅井 富雄—	雲物理Ⅰ (334~346) —権田 武彦—
	13:00~ 17:00	大気大循環と気候 (152~159) —真島 恒裕— 気候 (160~167) —小倉 士郎—	熱帯気象 (252~258) —大西 晴夫— 応用気象 (259~266) —藤原 滋水—	雲物理Ⅱ (347~354) —播磨屋敏生— 放射 (355~362) —川口 貞男—

注) 大会参加費 会員500円, 学生会員300円, 一般1,000円

シンポジウム「気象と海氷」

1. 日 時 大会第2日(10月14日)
2. 会 場 小ホール
3. 司 会 菊地勝弘(北大・理学部)
4. 話題提供者
 - 1) オホーツク海の海水分布とその変化(30分) 赤川 正臣(気研・海洋)
 - 2) 流氷観測レーダによる海氷の動態(40分) 石田 完(北大・低温研)
 - 3) オホーツク海の北海道の気象に与える影響(30分) 大川 隆(札幌管区)
 - 4) 大気と海氷の相互作用“大気大循環への影響”(40分) 片山 昭(気研・予報)
 - 5) 総合討論(20分)

講演発表者へのお知らせ

1. 札幌大会では第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は12分程度です。スライドの標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

研究発表題目

大会第1日(10月13日)09時30分~12時00分

第1会場 中小規模・総観規模現象 I

座長 黒 沢 真 喜 人

101. 播磨屋敏生・菊地勝弘(北大・理):昭和56年8月上旬北海道豪雨の解析
102. 堀江成人(久美浜高), 菊地勝弘・播磨屋敏生(北大・理):北海道胆振地方の山岳性降雨(その4)
103. 足立 崇(札幌管区):前線と台風のレインバンドの合流について(1981年8月の北海道の大雨)
104. 鈴木和史(札幌管区):強雨に伴う地上発散の特徴
105. 長谷川隆司(気象庁・予報), 二宮洸三(気象庁・電計), 中村和信(衛星センター):57.7月長崎豪雨の中規模じょう乱の解析
106. 古賀晴成・山岸米二郎・巽 保夫・二宮洸三(気象庁・電計):Very Fine Mesh Modelにおける豪雨の降水量(57.7豪雨の予報実験)
107. 古賀晴成・山岸米二郎・巽 保夫・二宮洸三(気象庁・電計):Very Fine Mesh Modelにおける豪雨を伴う前線(57.7豪雨の予報実験)
108. 二宮洸三(気象庁・電計), 長谷川隆司(気象庁・予報):亜熱帯・非前線性レイン・バンド(観測)
109. 二宮洸三・巽 保夫(気象庁・電計):亜熱帯・非前線性レイン・バンド(予報実験)
110. 蘇 鮮燮(東大・理):梅雨期の熱, 水蒸気, 運動量収支と降水量の解析
111. 蘇 鮮燮(東大・理):Arakawa-Schubert 積雲パラメタリゼーションモデルの梅雨期への適用

第2会場 大気汚染

座長 伊 藤 昭 三

201. 玉井邦宏(埼玉県公害センター), 板宮憲一・増田幸一(㈱日科技研):円グラフによる図化法を用いた気象条件の分類(関東地方の光化学大気汚染に関連して)
202. 瀬戸信也・大原真由美(広島県環境センター), 宮田賢二(広島女子大):広島県沿岸地域の大气汚染と海陸風—SO₂, NO₂, Ox の日変化について—
203. 山本 務・藤岡博文・美澤 誠(香川県公害研究センター):瀬戸内の島しょ部—内陸部における

光化学大気汚染について(主に局地風の解析を中心として)

204. 桂川秀嗣(東邦大), 矢野 直・佐藤純次・小林隆久・小出 孝(気研・応用):大気エアロゲル粒子の元素別発生源と海陸風の影響
205. 市川陽一・四方 浩(㈲電力中研):地形影響を考慮した気流及び排ガス拡散の数値モデル(2)—ポテンシャル流による3次元地形上空気流推定方法—
206. 白木正規(気研・予報):風の日変化と一般風(I)
207. 伊藤昭三・星野毅史・溝尻純枝(大阪府大・工):ノンピアントジェットの速度分布に関する研究—横風中のジェットの室内実験—
208. 光本茂記・植田洋匡(国立公害研), 尾添紘之・柴田 勉(岡山大・工):海陸風循環流に伴う, 混合層内の小規模運動
209. 真木太一(農技研・気象科):防風網の配置法に関する風洞実験結果について
210. 市川哲也(筑波大・自然), 林 陽生(筑波大・地球科学):粗度のパラメーターに関する風洞実験
211. 加藤真規子(気研・物理):粗度要素による乱流境界層内の拡散(風洞実験)

第3会場 測器

座長 内 藤 恵 吉

301. 木村忠志(防災セ・雪害研):Metal Wafer による積雪相当水量の観測
302. 佐藤 威(東北大・理):日中の長波長放射量の測定
303. 松本茂昭・小林久信(埼玉大・工):α線の吸収変化を利用した湿度の測定
304. 山下喜弘(気研・衛星), 和田 誠・山内 恭(極地研), 岩坂泰信(名大・水圏研):実験室用 Lyman α/OH 水蒸気計
305. 岩坂泰信・斎藤 定(名大・水圏研), 村林 成(日本データゼネラル), 山下喜弘(気研・衛星), 小野 晃(名大・水圏研):気球・航空機による水蒸気の測定(I)—その準備と計画—

306. 田端 功 (気研・衛星) : ライダーによる雲の観測 序報
307. 高橋克巳・田端 功・稲田 巖・岡田芳隆・内藤 恵吉 (気研・衛星) : ライダーによる成層圏エーロゾルの観測 (3) (成層圏異常エーロゾルによる透過率の低下について)
308. 岡田芳隆・稲田 巖・高橋克巳・田端 功・内藤 恵吉 (気研・衛星) : ソーダアンテナの指向性の測定
309. 赤井幸夫・小林博和・西宮 昌 (電力中研) : 音波による長スパン風向風速計の試作
310. 山元龍三郎・岩嶋樹也 (京大・理・気候変動実験施設), 林 周行 (特コムシステム) : 印刷気象データ光学読取装置

大会第1日 (10月13日) 13時00分~17時00分

第1会場 中小規模・総観規模現象 II

座長 秋山 孝子

112. 秋山孝子 (気研・予報) : 豪雪時の大規模場の時間変化過程—1980.12~1981.1北陸豪雪—
113. 菊地勝弘 (北大・理), 今 久 (千葉大・園芸), 遊馬芳雄・谷口 恭 (北大・理), 佐藤 巖 (札幌市役所) : 札幌市内の降積雪予測モデルの検討 (I)
114. 八木正允 (気研・予報), 相原正彦 (気研・台風) : トランスパース・モードの雪雲の不安定論
115. 加藤内蔵進 (東大・海洋研) : 大気中の加熱率及び海面での顕熱フラックス評価について (鉛直分解能とサンプリングバイアス)
116. 加藤内蔵進 (東大海洋研) : 日本近海域における大気中の熱・水蒸気収支の季節変化
117. 黒坂裕之 (筑波大) : 冬季日本海南部の雲分布パターンとその変化
118. 中村 一 (東大・理)・村上多喜雄 (ハワイ大) : Cold surge に対する山岳の影響
119. 多田一正 (気象庁・電計) : 8層北半球プリミティブモデルに及ぼす放射の影響
120. 嶋村 克 (気象庁・予報) : 衛星画像にみられる雲システムの鋭い西縁—統計的結果と生成原因—
121. 堀口郁夫・谷 宏 (北大・農)・里見 穂・元木敏博 (気象庁・衛星) : 地上気温とひまわり赤外データの比較について
122. 武田重夫 (気研・予報) : 「運動学的モデル」と力学について (簡単な傾圧性擾乱の場合)
123. 上田 博・八木鶴平 (国立防災センター) : 降雨の短時間予測のためのレーダーエコーの補外に必要な風ベクトルについての検討
124. 二宮洗三 (気象庁・電計) : 豪雨域下流・対流圏

の内部重力波(?)

125. 岡村博文 (気研・台風) : 重力波としての pressure dip の考察
126. 村松照男 (気研・台風) : 台風の温低化過程における移動速度の変化—T5416 (洞爺丸台風) の温低化について—
127. 宮尾 孝他 (函館海台) : 利尻島で観測されたテラー柱

第2会場 エクマン境界層

座長 吉門 洋

212. 島貫 陸 (東京学芸大) : 大気境界層の時間高度2次元データの解析 (2)
213. 安田延壽 (東北大・理) : 斜面流の素過程
214. 近藤裕昭・吉門 洋 (公資研) : 斜面風の性質について (その3) : 斜面が有限の場合
215. 森 征洋 (香川大・教育)・北山裕子 (城東小) : Surface Geostrophic Wind と地表風との対応について
216. 大畑哲夫 (名大・水圏研) : みずほ基地のカタバ風の構造
217. 小林俊一・石川信敬 (北大低温研), 大畑哲夫 (名大・水圏研), 川口貞男 (国立極地研) : ソーダによる南極カタバ風の観測 (Polex-South)
218. 小林博和・西宮 昌・宮川 実・赤井幸夫 (特電力中研) : ライダとソーダによる下層大気の同時観測 (I) —陸風と海風の交代に伴うエアロゾル濃度分布の変化—
219. 笹野泰弘・竹内延夫 (国立公害研) : 大型レーザーレーダーによる大気混合層発達過程の観測(II) モデル計算との比較

エクマン境界層

座長 笹野 泰弘

220. 藤谷徳之助・花房龍男(気研・物理)・伴野 登(元気象研): 大気境界層下部における拡散係数について
221. 蒲生 稔(公害資源研): 混合層の季節変化(その4)
222. 蒲生 稔(公害資源研): 混合層の季節変化(その5)
223. 吉門 洋・近藤裕昭(公資研): 冬季の静夜安定層上部の構造の観測(II)
224. 海霧研究グループ(気研, 発表者: 沢井哲滋): 釧路地方の海霧の観測I
225. 海霧研究グループ(気研, 発表者: 沢井哲滋): 釧路地方の海霧の観測II
226. 西村浩一他(財団法人気象協会・北海道本部): 北海道沿岸に発生する蒸気霧について(II)
227. 西村浩一(財団法人気象協会・北海道本部): 北海道沿岸に発生する蒸気霧について(III)

第3会場 エアロゾル

座長 望月 定

311. 丹治辰男・望月 定・沖野典夫・織笠桂太郎・松村信男・向井田健一・室住正世(室蘭工大・工): 室蘭地域に出現するエアロゾル(I)
312. 村上正隆(北大・環)・菊地勝弘(北大・理)・孫野長治(北大): 雪結晶によるエアロゾル捕捉実験—その3—ミクロンサイズエアロゾルの捕捉率—
313. 望月 定・丹治辰男・中野典夫・織笠桂太郎・松村信男・向井田健一(室蘭工大・工): 日本列島沿岸海上及び南方洋上のエアロゾル(I)—苫小牧—東京—父島往復船上観測—

314. 藤田慎一・寺田信之・千秋鋭夫(財電力中研): 沿岸地域から海上へのエアロゾル輸送の観測
315. 岩坂泰信(名大・水圏研/極地研), 平沢威男・福西 浩(国立極地研)・藤原玄夫(九大・理)・藤井良一・宮岡 宏(国立極地研)・伊藤昇司・佐竹公彦・安田 升・大谷博康(NEC 府中): 南極中層大気探査用レーザーレーダシステム—基本仕様とその試験結果—
316. 小野 晃・大和政彦・吉田 稔(名大・水圏研): エベレストの sulfate 粒子
317. 村山信彦・佐藤 功・根本 修(気研・応用): 黄砂エアロゾルの輸送量推定の試み
318. 村山信彦(気研・応用), 八十科洋(衛星センター): 火山噴煙プルームの長距離輸送の観測
319. 林田佐智子・岩坂泰信(名大・水圏研): エルチチョン火山噴火による成層圏エアロゾルの急増—ライダー観測
320. 岩坂泰信・林田佐智子(名大・水圏研): 成層圏エアロゾル層の偏光特性の観測, エルチチョン火山噴火と関連して
321. 柴田 隆・山村英明・広野求和(九大・理): 1982年1月成層圏エアロゾル, 原因不明の急増, 同, 4月, エル・チチョン大噴火による激増
322. 広野求和・柴田 隆・山村英明(九大・理): エルチチョン火山'82年爆発後の成層圏エアロゾル増加と拡散
323. 成瀬 弘・池上三和子(気研・応用): 筑波における雲核濃度の測定結果
324. 根本 修・成瀬 弘(気研・応用): 赤外分光計によるエアロゾルとガス分析
325. 今井俊男(寿都測): 降水洗滌の研究(第3報)

大会第2日(10月14日)09時00分~11時30分

第1会場 地球流体力学

座長 森山 茂

128. 守田 治(九大・理)・山口栄次(福岡航測): 回転水槽中の Vacillation について
129. 高谷美正(気象大): 順圧流における連続モードは本当に $1/t$ で減衰するか?
130. 渡部文雄(東管・調査): 2層2列モデルにおけ

る順圧傾圧不安定

131. 余田成男(京大・理): 帯状流・地形による強制波・傾圧不安定波の相互作用について
132. 高野清治・宮原三郎(九大・理): 定常プラネタリー波の赤道域における東風加速
133. 三村和男(京大・理): Rossby-Gravity Wave の南北伝播特性

134. 林 祥介・松野太郎(東大・理): 中間圏内部重力波の酸素再結合反応による増幅Ⅱ
135. 野上 豊(京大・理): 地球流体におけるソリトン(I)
136. 野上 豊(京大・理): 地球流体におけるソリトン(Ⅱ)
137. 松田佳久(東京学芸大): 金星大気四日循環の傾圧不安定論(I)
138. 堤 之智・宮原三郎(九大・理): 火星における潮汐波動による平均風生成
139. 森山 茂(日大・生産工): 火星の大砂嵐と熱潮汐(Ⅱ)

第2会場 接地境界層

座長 小林 俊一

228. 山下喜弘・松岡登志(気研・衛星), 花房龍男(気研・物理): 高度 200 m 以下の気層の風速の鉛直分布と安定度
229. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 乱流統計量の高度と安定度による変化(Ⅳ)
230. 岩谷祥美・塩谷正雄(日大・生産工): 風速鉛直成分の鉛直相関
231. 戸矢時義(気研・応用), 安田延壽(東北大・理), 荒川正一(気研・応用): 裸地面からの蒸発と土壌水分について一地表面近傍の土壌水分の日変化一
232. 石川信敬・小林俊一・小島賢治(北大・低温研): 融雪期の顕熱測定
233. 中村圭三(道都大): オホーツク海岸地域における海水期の気候特性
234. 近藤裕昭・山本 晋(公資研): 放射伝達過程を考慮した境界層の数値実験

235. 米谷俊彦・瀬尾琢郎(岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について(15)
236. 千葉 修・菊地時夫(高知大・理), 安達隆史(日本気象協会・研究所): 風速鉛直成分の8次モーメントまで考慮して Gram-Charlier 展開した確率密度関数について
237. 井上治郎(京大・防災研), 西村 寛(北大・低温研), 佐藤和秀(長岡高専): 南極内陸高原部の大気境界層の構造

第3会場 大気化学・大気電気

座長 大喜多 敏一

326. 金戸 進・岩崎俊樹(札幌管区): 観測データに基づいたオゾン寿命の季節変動の評価
327. 岩崎俊樹・金戸 進(札幌管区): 観測データに基づいたオゾン輸送の季節変動の考察
328. 小川利紘(東京大), 木下知己(三菱総研), 佐藤正博(三菱総合研究所): フロンの成層圏オゾンに与える影響
329. 田中正之・中澤高潔・青木周司・深堀正志(東北大・理): 大気中の二酸化炭素濃度の測定Ⅴ, 富士山頂における二酸化炭素濃度の変動
330. 杉村行勇・広瀬勝己(気研・地球化学): 大気および降水中のトリウム同位体について
331. 井上久幸・葛城幸雄(気研・地球化学), 重原好次(気象庁・海洋): 東京(筑波)における降水と大気中のトリチウム濃度
332. 葛城幸雄(気研・地球化学): 日本における⁹⁰Sr降下量の季節変化について
333. 遊馬芳雄・菊地勝弘・谷口 恭(北大・理), 遠藤辰雄(北大・低温研): 1981年7月31日の日食の大気電気要素の測定

大会第3日(10月15日) 09時00分~12時00分

第1会場 大気大循環と気候

座長 廣田 勇

140. 増田善信(気研・予報): 大気振動に対する上部境界条件の影響
141. 浅井富雄・田口彰一(東大・海洋研): プロッキングの統計的解析(1) 時間フィルターに基づく解析
142. 楠 昌司(東大・理): 大規模山岳に励起された

プラネタリー波の非線形相互作用

143. 岸保勘三郎・工藤 恵(東大・理): 冬期北半球の大気中における高度場の三次元テレコネクション
144. 山元龍三郎・岩嶋樹也・竹内義明(京大・理・気候): 大気大循環の水平・時間スペクトルモデル(序報)
145. 鬼頭昭雄・時岡達志(気研・予報): MRI・GCM-

Iによる7月のシミュレーション

146. 時岡達志・鬼頭昭雄(気研・予報): 1月のモデル大気(MRI・GCM-I)の低緯度大循環の特徴
147. 廣田 勇・塩谷雅人(京大・理): 上部成層圏循環に関する南北両半球の比較
148. 廣岡俊彦・廣田 勇(京大・理): Tiros-N SSU dataによる上部成層圏 5-day waveの全球解析
149. 宮原三郎(九大・理): Solar diurnal tideによる下部熱圏平均風生成(全球モデル)
150. 三角幸夫(京大・理): 惑星間空間磁場境界通過に対する地球大気の応答—10 mb 面波数1
151. 川平浩二(京大・理): プラネタリー波によるオゾン変動の研究(Ⅲ)—成層圏突然昇温時におけるオゾン変動のシミュレーション—

第2会場 局地循環

座長 浅井 富雄

238. 楠田 信(大分高専), Pinhas Alpert(ハーバード大), 阿部信男(大分高専): 海陸風ホドグラフの反時計廻りの回転について
239. 荒川正一・木村富士男(気研・応用): 日高しも風の数値シミュレーション
240. 米谷恒春(国立防災センター): ヒートアイランドの影響を受けた積雲の振舞—一般風がある場合の数値シミュレーション—
241. 鶴野伊津志・若松伸司(国立公害研): 主成分分析による局地立体風系の解析
242. 平松 親・孫野長治(北大・環境研): 札幌市の大気環境Ⅴ—冬季のヒートアイランド—
243. 森 洋介(宮城教育大), 近藤純正(東北大・理): アメダス(地域気象観測所)データを用いた夜間冷却量の解析
244. 近藤純正(東北大・理), 森 洋介(宮城教育大): 複雑地形の地表面における見かけの粗度や熱的物理解定数の推定
245. 渡辺 明(福島大): 関東地域の不連続線
246. 内藤玄一(国立防災センター), 村治能孝(アジア航測): 航空機による海洋上の大気境界層観測
247. 横山長之・蒲生 稔・山本 晋・林 正康(公害資源研): ヘリコプターによる大気乱流の測定
248. 「広域大気汚染の動態」観測グループ〔担当者 浅井富雄・藤部文昭(東大・海洋研)・山田真吾(広島地台)〕相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—海陸風の特徴—
249. 「広域大気汚染の動態」観測グループ〔担当者 植

田洋匡・光本茂記(国立公害研)〕: 相模湾における海陸風の構造—航空機による風速立体分布の測定について—

250. 「広域大気汚染の動態」観測グループ〔担当者 鶴田治雄・平野耕一郎・前田裕行・太田正雄(横浜市公害研)〕: 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—1981年—湾上での1次および2次汚染物質濃度の日変化—
251. 「広域大気汚染の動態」観測グループ〔担当者 鶴田治雄(横浜市公害研)〕: 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—1981年—汚染物質の立体分布—

第3会場 雲物理 I

座長 権田 武彦

334. 桜井兼市(北教大旭川): 氷霧の霧粒及び氷晶中の固体粒子について(Ⅱ)
335. 梶川正弘(秋田大・教育)・三浦栄子(秋田市・旭南小): 初期雪片の構成様式について
336. 藤吉康志・小西啓之・入川真理(北大・低温研), 加藤喜久雄(名大・水圏研): 降雪の酸素同位体組成の変動について(Ⅰ)
337. 高橋庸哉・井上 力・伊藤由幸(札幌市青少年科学館): 大型垂直風洞による人工雪実験
338. 山下 晃・大野隆行(大教大), 浅野浅春(同附高), 竹内健司(池田中): 自然循環型クラウドチェンバーを用いた人工雪の研究
339. 浅野浅春(大教大附高), 大野隆行・山下 晃(大教大): 融点直下で成長するうろこ状結晶
340. 佐藤 昇・菊地勝弘(北大・理): 奇形雪結晶の生成(Ⅰ)
341. 木幡繁嗣・古川義純(北大・低温研): 氷の Negative Crystal—晶癖変化の温度依存性について—
342. 古川義純(北大・低温研): 氷結晶表面の蒸発模様の“その場”観察
343. 清 忠師・宮崎 誠・権田武彦(東理大・理工): -15°C , 低圧空気中に於ける氷晶の成長速度
344. 黒田登志雄(北大・低温研): 疑似液体層におおわれた氷結晶の蒸気相成長機構
345. 黒田登志雄・木林禎作・古川義純(北大・低温研): 氷の結晶の平衡形—Wulffの定理と Stranski-Kaischewの方法—
346. 高橋 徹・小林禎作(北大・低温研): 過冷却水滴からの立方晶構造の形成機構

大会第3日(10月15日) 13時00分~17時00分

第1会場 大気大循環と気候

座長 真島恒裕

152. 西村 寛(北大・低湿研), 井上治郎(京大・防災研)・佐藤和彦(長岡高専): 南極の内陸高地における高層気象観測(Polex-South)
153. 戸松喜一(気研・予報): FGGE データによる1979年1月の観測的研究
154. 吉野正敏・R. スパイヤー(筑波大・地球科学): スリランカのケッペンの子候による気候変動の研究
155. 吉野正敏・解 思梅(筑波大・地球科学): 東アジアの気候異常と北太平洋の水温分布(II)
156. 藤田敏夫(気研・予報): ベズィミヤン火山の大爆発と夏季の異常気候
157. 田宮兵衛(気研・予報): 北半球 500 mb 高度場の変動
158. 青木 孝(気研・予報): 台風の区域別出現度数と海面水温
159. 大井正一(埼玉大): 成層圏天気図の解析(B2) 春四月の寒暖

気候

座長 小倉士郎

160. 松本 淳(東大・理): 冬期における北極前線帯の位置について
161. 浅井富雄・諸 濟蒼(東大・海洋研): 極東における温帯低気圧活動の長期変動-I. 低気圧活動の気候学的特徴-I
162. 小元敬男・鱧谷 憲(大阪府大・農): 気候データに含まれる都市気候の影響度の評価の試み(6) 全国気象官署の気候データについての評価
163. 西山勝暢(函館海台): 北日本の気象と海況
164. 石井英夫・伊藤直敏(札幌管区): 循環指数と北海道の平均気温
165. 野本真一(気研・予報): 視程の経年変化
166. 久保光則(気象大): 「一雨降水」を用いて考えた福岡の降水の型について
167. 三上岳彦(お茶大): 1780年代における天候分布復元の試み

第2会場 熱帯気象

座長 大西晴夫

252. 大西晴夫・山岬正紀(気研・台風): β 面上における低気圧性渦の移動について
253. 木村竜治(東大・海洋研): 台風の移動に対する地表面摩擦の影響
254. 村松照男(気研・台風): 台風眼のトロコイダル運動(II)
255. 井沢龍夫(気研・台風): ITCZ の波動じょう乱と台風の発生
256. 新田 勅(東大・理): 夏期チベット高原上の熱源分布とその時間変動
257. 隈 健一・新田 勅(東大・理): 夏期モンスーン期におけるインド洋上の擾乱の解析
258. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): FGGE III-B データにみられる低緯度対流圏上部の東進波(続)

応用気象

座長 藤原滋水

259. 増田善信(気研・予報): 「天気指数」と天気予報の評価
260. 増原孝明・木村昌史(日本気象協会東京本部): 関東地方の熱収支, 水収支と地表面平衡温度
261. 山下邦博・笠原保信(消防研): 予備注水による樹木への延焼防止に関する実験的研究(その1) 樹木に付着した水の蒸発速度
262. 山下邦博・笠原保信(消防研): 予備注水による樹木への延焼防止に関する実験的研究(その2) 予備注水の延焼防止有効時間
263. 小林禎作(北大・低湿研): いつ誰がはじめて雪の六方対称を認識したか I, 文字に記された雪
264. 小林禎作(北大・低湿研): いつ誰がはじめて雪の六方対称を認識したか II, 文様に描かれた雪
265. 真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工), 志賀正信: 地震直前に現れる抗道内の湿度の異常
266. 真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工)・志賀正信: 地中湿度及び間歇温泉の卓越周期

第3会場 雲物理 II

座長 播磨屋敏生

347. 武田喬男・池山雅美(名大・水圏研): 西太平洋

上での雲量の数10日毎の変動

348. 赤枝健治・武田喬男 (名大・水圏研) : 中層に見られる中規模降水エコー
349. 武田喬男・高瀬邦夫・赤枝健治 (名大・水圏研) : 積乱雲群における降水形成
350. 椎野純一 (気研・台風) : 海洋性積雲における降水粒子の成長—数値シミュレーション, 観測的事実との比較—
351. 横山辰夫 (名大・水圏研) : 多波長レーダーで見た融解層の微物理過程 I. プライトバンドのモデル計算
352. 和田 誠 (国立極地研) : 雨滴, アラレ, 雪片のレーダー反射強度の計算—pulse to pulse による—
353. 石坂 隆 (名大・水圏研) : 空気の混合に伴う雲粒の粒度分布の変化に関する室内実験—予備実験—
354. 石坂 隆 (名大・水圏研) : 雲粒濃度測定装置の改良について
- 座長 川口 貞 男
355. 田中正之・中島映至・山野 牧・塩原匡貴 (東北大・理), 荒生公雄 (長崎大・教育) : 長崎における黄砂の観測 (I)
356. 荒生公雄 (長崎大・教育), 石坂 隆 (名大・水圏研) : 黄砂の濃度と直達日射情報に関する考察
357. 田中正之・中島映至・程 順和 (東北大・理) : 直達日射量および太陽周辺光強度に及ぼすエアロゾルの影響
358. 小林隆久・村山信彦・矢野 直 (気研・応用), 森田恭弘 (名大・空電研) : 航空機による短波長 Flux とエアロゾルの同時測定
359. 川口貞男 (国立極地研) : 雲の長波長放射特性
360. 廣野幹彦・須田 剛 (新潟大・工) : 非ローレンツ型吸収線によるバンド吸収
361. 佐藤隆夫 (長崎大) : 大気中の第三次散乱光の計算結果 (7)
362. 佐藤隆夫 (長崎大) : 大気中の第三次散乱光の計算結果 (8)

第3会場 放射